

「未来への逃避行」

050 東京都三鷹中等教育学校

ある日私は全てを投げ出しあてもなく旅にでた。行先は特に決めてなかったが、昔雑誌で見た能登さくら駅といわれていたような駅に行こうと、なんとなく思った。なぜこんな気持ちになったのか新幹線の中で悶々と考えるが後悔ばかりが浮かんでは消えていく。空は私の気持ちに反して憎たらしい快晴だった。

目的の小さな駅に降り立ち、気の向くまま歩いていると子供たちの歓声が聞こえてきた。小学校だろうか。立ち寄った道の駅では「復興」という2文字がとても目についた。災害で大変な思いをした人たちが未来へと頑張っているのに自分がこんな小さなことで悩んでいてもいいのかという思いが沸き上がってくる。

この駅は桜の名所として有名だと、駅前の商店の人が言っていたことを思い出す。また桜が咲く頃になったら来よう。そう強く思いながら、地面を踏みしめて列車に乗り込んだ。ふと振り返ると、窓に移る能登の景色が、輝いて見えた。